



Q 男性が創作したものと女性が創作したものの違いを意識されることがありますか。

女性の俳句は一般的に「肌感覚に近い」といわれています。男性とは異なる視点、感性だけがもてはやされた時代もありましたが、今では作品における男女の差はさほど感じません。男女の差というよりは、同じものを見てもそれぞれの視点でこんなに違うのか、と驚かされたり、感心したりすることばかりです。

今現在、5つの句会に属しています。句会では、有名な先生であっても、酷評される場合があります。私も「こんなのは俳句ではない。」と言われたことが何度もあります。しかし、だから

こそ楽しいのです。老若男女を問わず、誰もが同じ立場で対等に批評し合える句会というのは、極めてフラットです。そこに魅力を感じ、その世界に浸っています。

Q 新しい取組みをされていますか。また、ご自身の俳句の目指す世界はどういうものですか。

俳句の世界にもインターネットの影響が押し寄せています。従来からの本を作っていくことが大切だと考えている方々と、本にはさして興味のないインターネットがあればどこでもできるし、誰でもすぐに発表できるのではないかとというグループに分かれています。

本来、俳句は自由な心、豊かな感性が大切な芸術。その発表手法で区分されるようなものではないはず。そこでインターネットを意識して、紙ベースの本でありながらインターネットにも接点を持つような本を計画しています。

俳句には定型と自由律という種類がありますが、私は定型という五七五調のリズムを大切にしています。むしろそのスタイルを守るからこそ「自由」に表現できると思っています。

たった十七音で、あらゆる可能性を持つ俳句。今まで俳句に興味のなかった人にまで、少しでもその魅力が伝わるといいのですが。

夏草や兵どもが夢の跡 芭蕉

いつかは、この句のような広やかで時空を越えた句を詠んでみたいと思っています。

(取材：原田、藤田)

親子のつながりが第一歩



いな の やす え
稲野靖枝さん(下関市)

長門一ノ宮病院 副院長・山口県教育委員

Q 現在、どのようなことに力を入れて取り組んでおられますか。

まだまだ日本では精神科を受診するということには抵抗が少なくないと思います。それが子どもの場合、どうしても更に遅れがちになります。

人の能力にはそれぞれ大きな違いがありますよね。生まれもつたものとか、育つ環境とか要因は様々ですが、何か